資料３－１

(仮)生物多様性藤沢戦略の考え方

藤沢市自然環境実態調査(H23～H25)

前回調査（約 10 年前）に比べ市内全域で「生物多様性への４つの影響」の拡大が判明

第１の影響(危機)
開発など人間活動による影響
・土地利用の変化による緑地の減少
・前回調査地の分断
・調査地の孤立化（市南部）

第2の影響(危機)
自然に対する働きかけの縮小による影響
・樹林地における遷移の進行
・湿地における遷移の進行
・竹林の放置・拡大

第3の影響(危機)
人間により持ち込まれたものによる影響
・外来種の侵入・逸出とその増加

第4の影響(危機)
地球環境の変化による影響
・南方種の定着

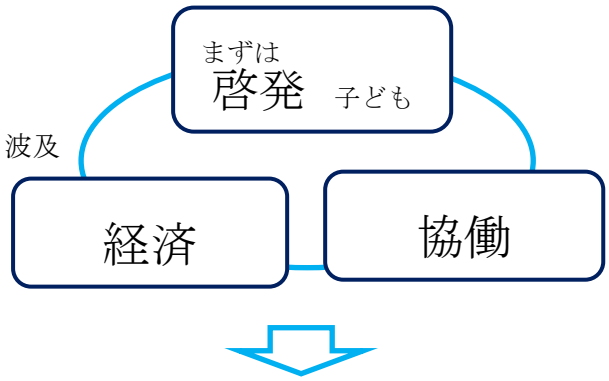
・藤沢市緑の基本計画
・藤沢市都市マスタープラン
等により影響回避

（仮）生物多様性藤沢戦略
により影響回避

・藤沢市地球温暖化対策実行計画
等により影響回避
※本計画は従来の「緩和策」が中心であり「適応策」については「藤沢市環境基本計画」において「進めていく必要がある」として今後具現化

現状・課題	・樹林地における遷移の進行 ・湿地における遷移の進行 ・竹林の放置・拡大 ・耕作地の管理法の変化による影響	・外来種の侵入・逸出とその増加	
本市の特性	・地勢　・気象　・市民活動　・歴史 ・バランスのとれた都市開発　etc		キーワード 啓発・協働・経済・子ども、外来種対策
将来像 （例えば）	・市民一人ひとりの普段の生活（活動）に生物多様性の意識づけと実践　etc　（まちづくり）		
施策の方向性	・農地再生　etc ・水面等多様な環境の再生	駆除は容易でない →侵入・逸出を防ぐ	戦略
具体的施策	市民協働を基本 これまでの市民活動に生物多様性の観点をプラス	普及啓発活動 教育現場を基本	戦術

【イメージ図　戦略とキーワードの繋がり】



自然環境に関する課題　・外来種対策
・未利用農地対策　等

（仮）生物多様性藤沢戦略

戦略１
- 戦術１
- 戦術２
- ・
- ・

戦略２

生活の中の〈暮らしの中に〉生物多様性